全熱交換換気ユニット 住宅用

GADELIUS

Established in Japan,1907

FläktGroup

形　名

RDKR-KS® RDAS®

設計工事説明書

販売店・工事店様用

お施主様自身では取付けないでください。(安全や機能の確保ができません)

RDKR-KS®

入っているか確認して下さい

本体（RDKR-KS）……1
コントロールスイッチ（RDKZ-41）……1
200V 用電源ボックス、コネクタ（200V-BOX）……1
本体取付固定レール部品……1式

取扱説明書（ 必ずお施主様にお渡し下さい。）……1

オプション

モジュラージャック・ケーブルセット ケーブル 6 芯 10m（RDKZ-43）…1

RDAS®

入っているか確認して下さい

本体（RDAS）…… 1
コントロールスイッチ（RDKZ-41）…… 1
200V 用電源ボックス、コネクタ（200V-BOX）…… 1
本体取付固定レール部品 …… 1式
取扱説明書（ 必ずお施主様にお渡し下さい。）…… 1

オプション

モジュラージャック・ケーブルセット ケーブル 6 芯 10m（RDKZ-43）… 1

【もくじ】

安全のために必ず守ること……1
推奨支給部材寸法図（RDKR-KS/RDAS）……2
推奨組上り図（RDKR-KS/RDAS）……3～4
本体設置工事（RDKR-KS/RDAS）……5～6
電源ボックス設置工事……7
コントロールスイッチ設置工事……8
ダクト工事……9～10
サイレンサー・ダクト断熱工事……11
レジスタ用ソケット設置工事……12
内部給排気レジスタ設置工事……13
外部給排気フード設置工事……14
測定……15
調整・テスト運転……16
寸法・換気システム各種動画URL
（RDKR-KS/RDAS）……17～18

Vol.4

安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

⚠ 警告　誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止

●単相 200V 以外では使用しない
正常な運転にならない

分解禁止

●どんな場合でも改造しない
火災・感電・けがの原因。

浴室使用禁止

●換気本体を浴室など湿気の多い所には取付けない
感電・漏電の原因。

アース線接続

●アースを確実に取付ける
故障や漏電のときに感電する原因。

指示に従う

●外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ
新鮮な空気が取り入れられず、室内が酸欠状態になる原因。
●本体の設置は十分強度のあるところを選んで確実に行う
落下によるけがの原因。
●指定の電線を使用して、抜けないよう確実に接続する
接続に不備があると火災の原因。
●電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う
接続不良や誤った電気工事は感電や火災の原因。
●メタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りの木造の造営物に金属ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取付ける。
漏電した場合、発火する原因。

⚠ 注意　誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

禁止

●高温となる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所には取付けない
火災の原因。
●右記の使用条件を超える地域・場所には取付けない
使用条件を超えた場合、結露水が滴下することがあります。

機種タイプ	外気温度
RDKR-KS/RDAS	−40〜50℃

指示に従う

〈本体〉
●本体およびダクト配管は断熱層・気密層の室内側に設置する
断熱層の室外側では、熱回収した空気温度の低下や、ドレンや結露などが発生する原因。
●本体設置は本体の傾きが ±1°以内になるように設置する
水漏れにより住宅構造躯体を濡らす原因。
●端子台カバーは電気工事後、必ず閉める
ほこり、湿気などの侵入による、漏電・火災の原因。

〈ダクト配管〉
●本体から屋外へ向かう給・排気ダクトおよび室内へ向かう給気ダクトの断熱は必ず根元まで行う
冬期露出部分が低温になるため、室内湿気による結露発生の原因。
●ダクト配管の外れが無いよう市販の固定バンドやアルミテープ等を用いて固定し、本体からの屋外側ダクトは屋外に向けて 1/30 以上の下りこう配(雨水・雪浸入防止)になるように取付ける
雨水の浸入による感電・火災や家財の破損の原因。
●点検口、天吊ボルト、床固定ボルト他のダクト配管への接触をさせない
異常音、振動の原因。
●給・排気ダクトの先端には、雨水、雪、小動物(こうもり等)が侵入しにくい屋外フードを選定する
小動物の侵入には、ガラリの幅が 1〜2 ㎝の屋外フードを取付けて下さい。
●100φ以上の硬質ダクト等を使用する
●給気側のダクト配管には、消音性のあるダクトや部材を必ず使用する
●寒冷地では、外部給気ダクトの長さを 4m 以上設けて下さい。
(結氷の原因)

●設置の際は必ず手袋を着用する
けがの原因。
●部品の取付けはねじれ、変形が無いように確実に行う
落下によるけがの原因。
●製品を置く際に、落としたり投げたりして衝撃を与えない
製品内構造物の破損による風漏れ・水漏れの原因。
●本体は寝室の近くに設置しない
低騒音設計になっていますが、就寝時はわずかな音でも気になります。

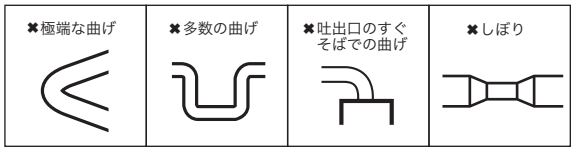
●取り扱いの注意
1. 本システムは 24 時間運転を行って下さい。お手入れの時をのぞいて停止しないで下さい。断続運転をされると管内結露、結露による躯体の損傷、換気不足が起こる可能性があります。
2. 本機運転中に本機の扉を開けた場合、自動的に停止する仕組みになっています。
3. 本機運転中コントロールスイッチのカバーを開けないで下さい。感電 (200V) の恐れがあります。
4. 万一、本機から異音、異臭もしくは本機が止まった場合、電源をブレーカで切った後、速やかに管理事務所、施工業者、または弊社に修理依頼をして下さい。
5. 本機停止時は換気できない状態になります。適時窓の開閉などで換気を確保して下さい。
   本機の停止はブレーカの切断によって行います。点検や掃除はモーターの回転が止まっていることを確認してから作業を開始して下さい。
6. 本機内の作業においてファン、熱交換器、本体等金属部分によって怪我のないよう充分にお気をつけ下さい。
7. 本機は定期的メンテナンスが必要です。内容については取扱説明書をご確認下さい。

●ご留意点
レジスタの着脱の時、スプリングがうまく入っていないと落下の可能性がありますので、取付時はレジスタが確実に取り付いているか充分にご確認下さい。

お願い

●天井材は共鳴しにくい材質をご使用下さい。
●本体は寝室の近くに設置しないで下さい。
(騒音クレームの原因)
●給・排気フードは反響し難い場所に設置して下さい。
(騒音クレームの原因)
●給・排気フードの位置は給気・排気が混ざらないようダクト貫通穴径の 5 倍以上離して下さい。
(625 ㎜以上の距離をとることが望ましいとされています)

●次のようなダクト配管はしないで下さい。
(風量低下や異常音発生の原因)



推奨支給部材寸法図

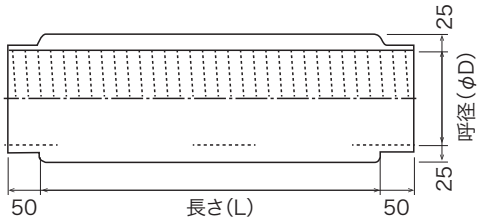
RDKR-KS®
RDAS®

※3,4ページに掲載している部材の寸法図です。
※換気本体の寸法図は17,18ページをご覧ください。

●サイレンサー

■外形寸法図

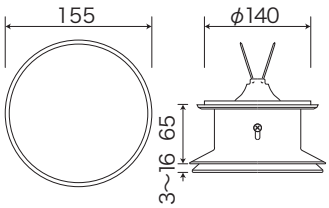
（単位：mm）



ニップルが必要です

●給気レジスタ

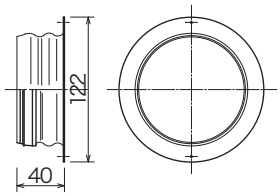
■外形寸法図（単位：mm）



CTVB-10

●給排気レジスタソケット

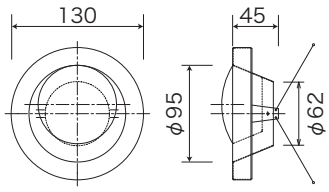
■外形寸法図（単位：mm）



KGEZ-01-10

●排気レジスタ

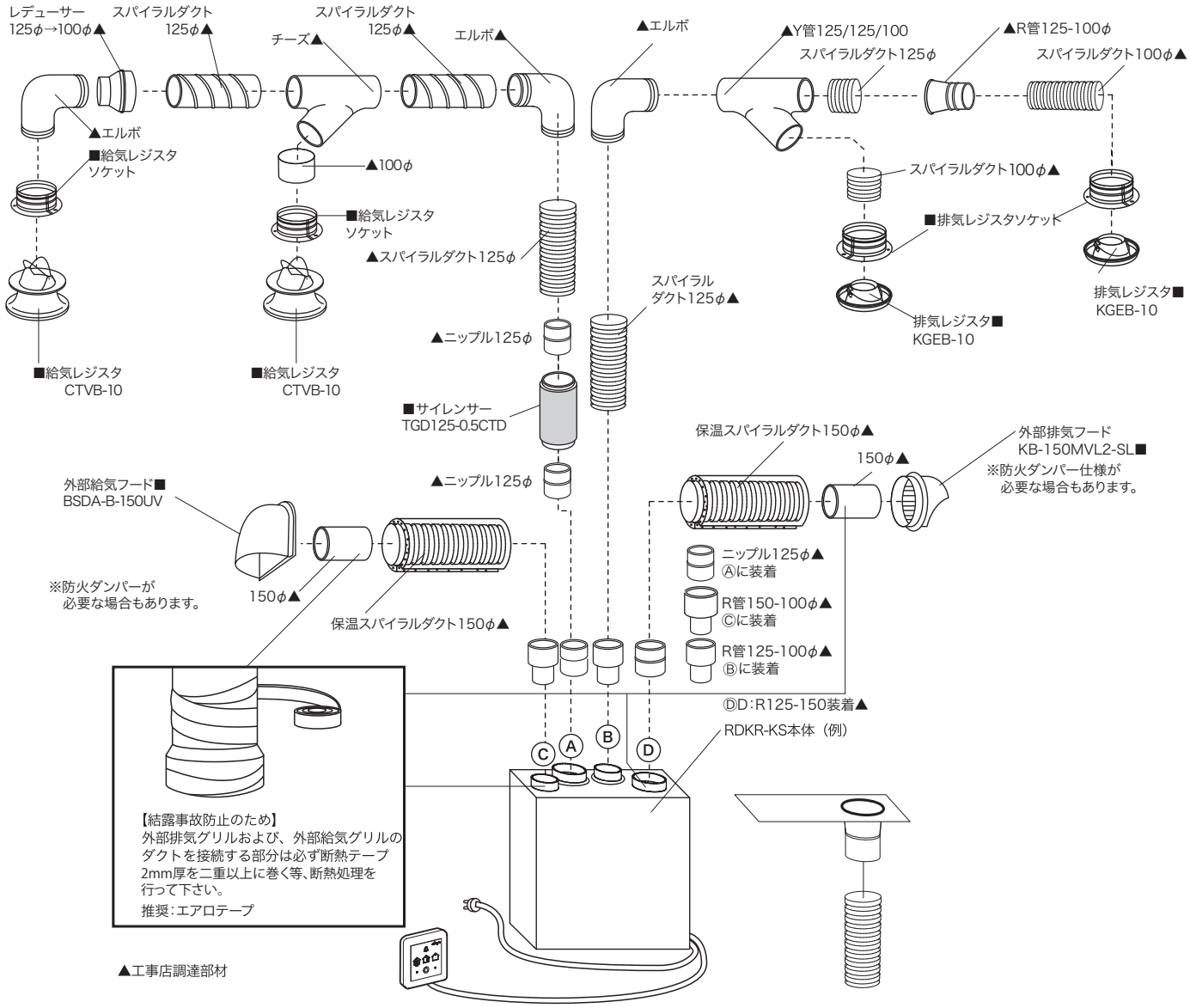
■外形寸法図（単位：mm）



KGEB-10

推奨組上り図　RDKR-KS®

● 支給部材
■ 推奨支給部材
▲ 工事店調達部材



※組上り図のダクト配管部材は、
スペース上省略をしています。

現地調達推奨品
外部給気サイクロンフード▲
CY-150-MG

給気フィルターのメンテナンスの
手間を低減できます

本体接続口のφは機種によって異なります。
一例） **RDKR-KS®**

A:各室への給気【SA】(給気レジスタへ)	本体接続口 125Φ
B:各室からの排気【RA】(排気レジスタへ)	本体接続口 125Φ
C:外部からの給気【OA】(外部給気フードへ)	本体接続口 150Φ
D:外部への排気【EA】(外部排気フードへ)	本体接続口 150Φ

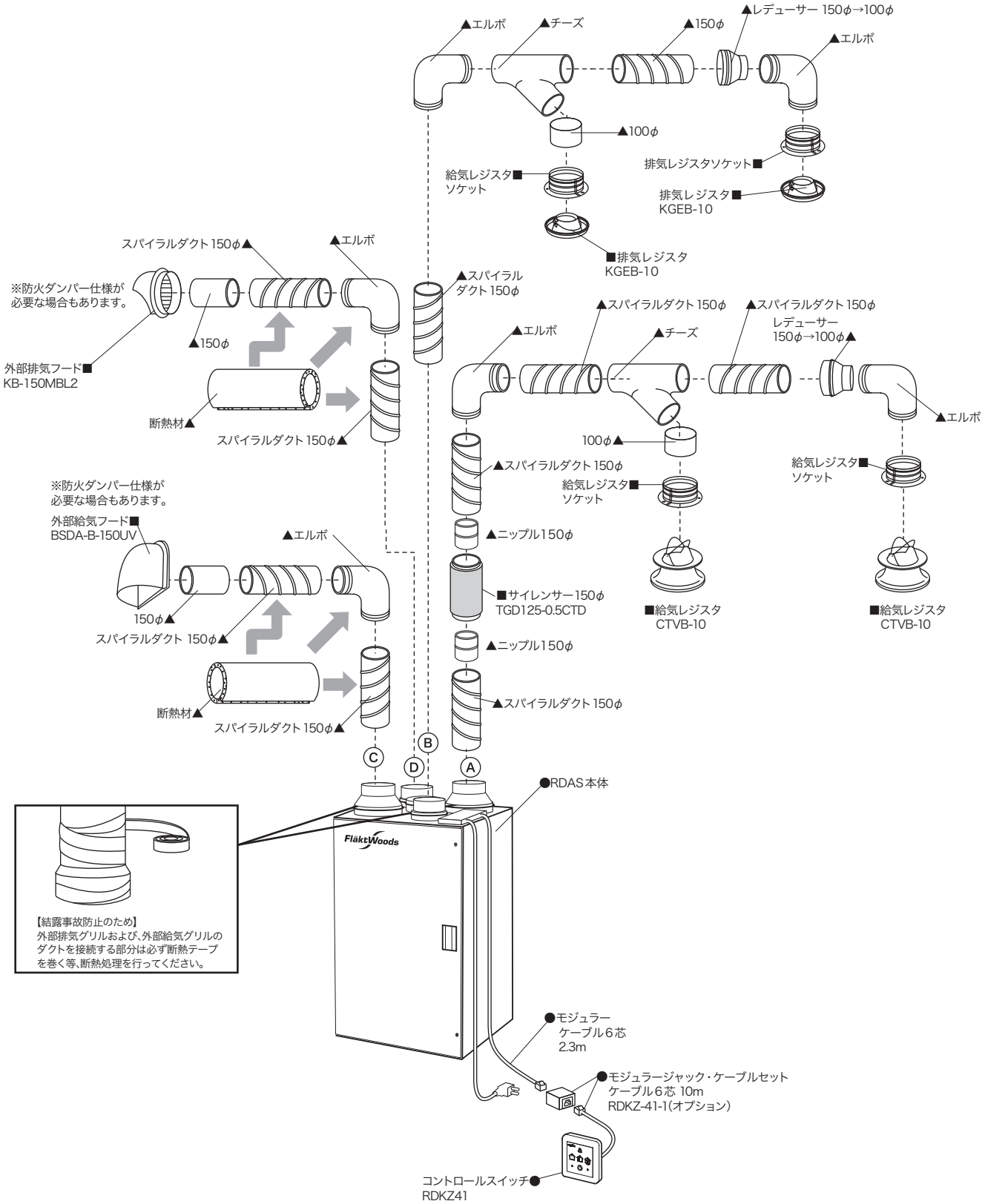
※ニップル及びR管を本体接続口へ装着後の径です。
※ダクトの接続にはビス打ち処理が必要です。

本体接続口～各給排気レジスタ周辺 100Φまでのφは各物件の換気計画図に倣ってください。
本体接続口～外部給排気口までのφは各物件の換気計画図に倣ってください。

推奨組上り図

RDAS®

● 支給部材
■ 推奨支給部材
▲ 工事店調達部材

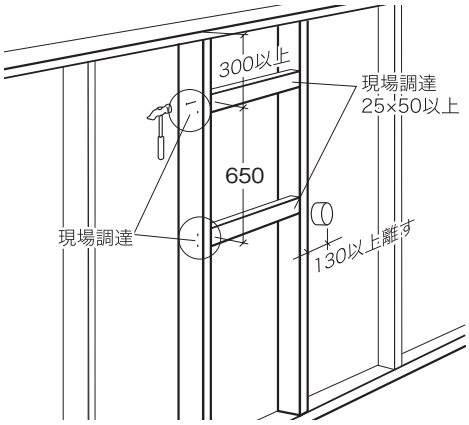


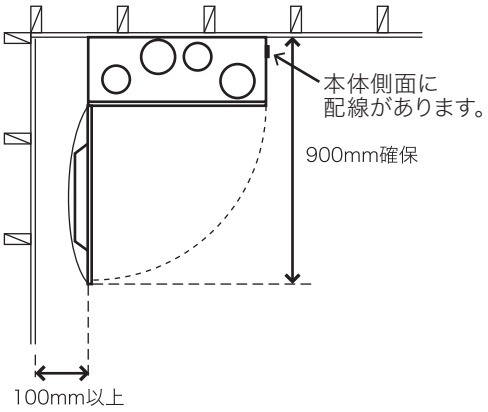
本体接続口〜各給排気レジスタ周辺 100Φまでのφは各物件の換気計画図に倣ってください。
本体接続口〜外部給排気口までのφは各物件の換気計画図に倣ってください。

施工　本体設置工事　RDKR-KS®

・換気本体は、フィルター清掃などメンテナンスが必要です。お施主様がお手入れしやすい位置に取付してください。
・設備機器の将来の更新を考えて、本体回りは余裕があるスペースを設けてください。

① 本体固定用下地の施工



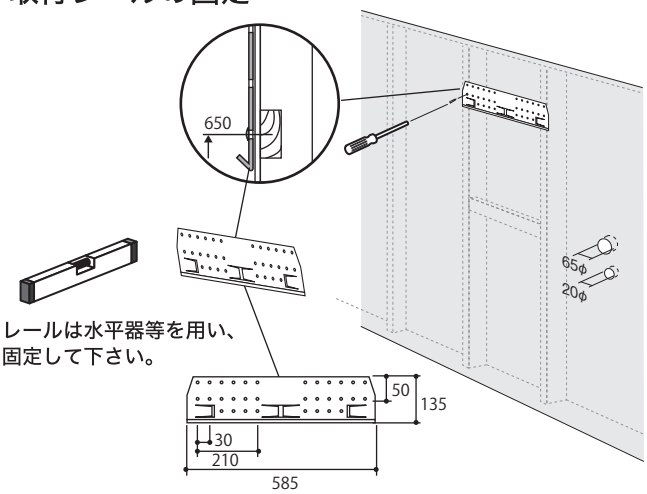


!

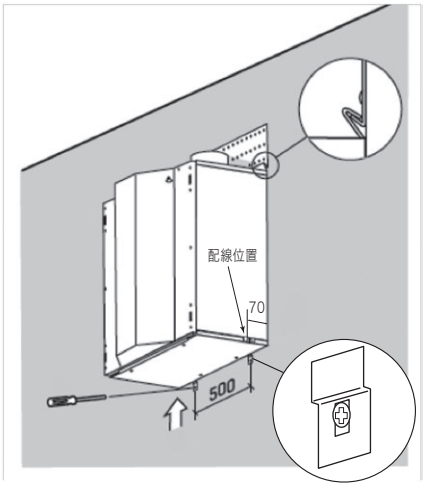
メンテナンスのため必ず本体は扉を開閉できる位置に設置して下さい。

・本体を設置する部分に柱・縦木・横木・下地材（合板等）のいずれかを必ず設け、本体取付固定箇所を確保して下さい。
・本体は上端天井から 300mm 以上下げた任意の位置に設置して下さい。
・電源ボックス取り付け位置に 65φの配線穴を開けて下さい。配線穴は本体端から 130mm 以上離して設置して下さい。
・コントロールスイッチ取り付け位置に 20φ程度の配線穴を開けて下さい。配線穴は本体端から 130mm 以上離して設置して下さい。

② 取付レールの固定

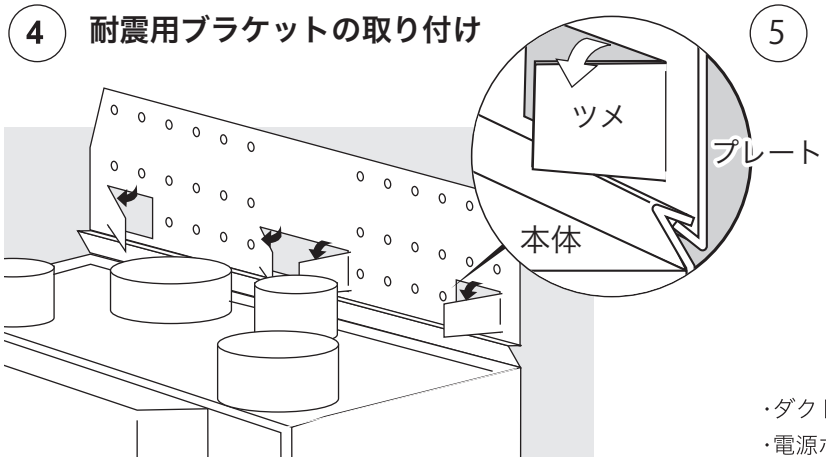


③ 本体の固定・ビス止め



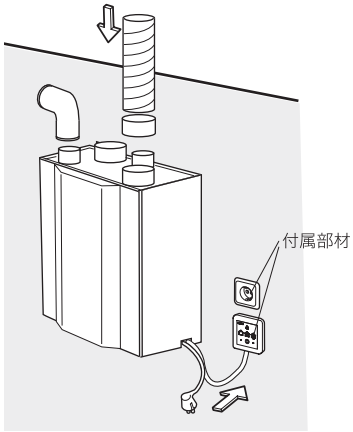
・付属品の取付レールを本体外側の上部設置位置へ固定して下さい。
※本体固定に使うビスは、現場調達となります。
　SUS304 M5タッピングビス（強度区分A2-50）をレール両側に最低2ヶ所以上で固定することを推奨します。
※取付レールのデザイン及び形状は予告なく変更される場合があります。
※付属部材は本体蓋を開けた中にしまわれている場合があります。

④ 耐震用ブラケットの取り付け



・取付レールに本体を固定した後、プレートの4箇所のツメを手前に折り曲げながら引き出し、プレートで抑え込むように固定してください。

⑤ ダクト・電源ボックス・コントロールスイッチの取付け

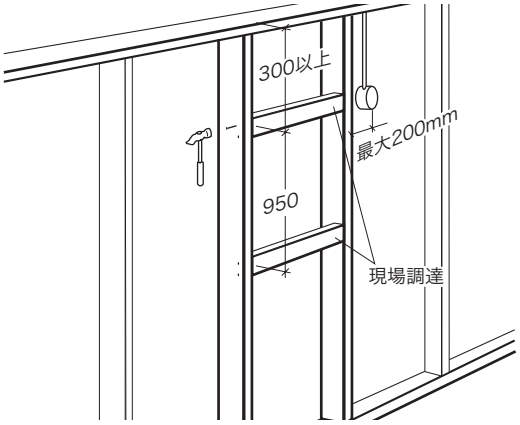


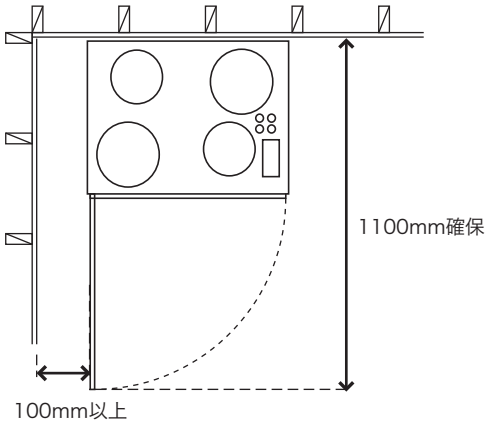
・ダクト施工を行って下さい。
・電源ボックス及びコントロールスイッチを取り付けて下さい。⇒ P7、P8

施工　本体設置工事

RDAS®

① 本体固定用下地の施工

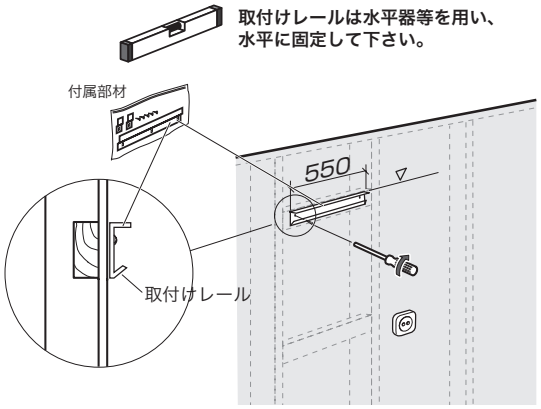




メンテナンスのため必ず本体は扉を開閉できる位置に設置して下さい。

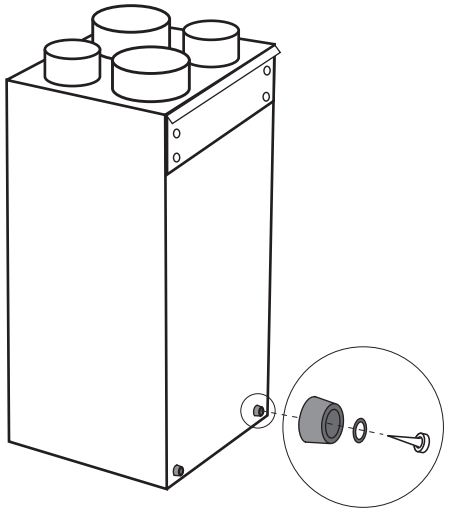
・本体を設置する部分に柱・縦木・横木・下地材（合板等）のいずれかを必ず設け、本体取付固定箇所を確保して下さい。
・本体は上端天井から 300mm 以上下げた任意の位置に設置して下さい。
・電源ボックス取り付け位置に 65φの配線穴を開けて下さい。配線穴は本体端から 130mm 以上離して設置して下さい。
・コントロールスイッチ取り付け位置に 20φ程度の配線穴を開けて下さい。配線穴は本体端から 130mm 以上離して設置して下さい。

② 取付レールの固定



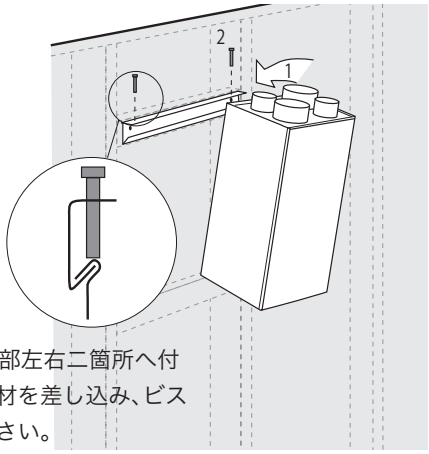
・付属品の取付けレールを本体外側の下部設置位置へ固定して下さい。
※本体固定に使うビス（計 5 箇所）は、現場調達となります。
SUS304 M5タッピングビス（強度区分A2-50）を
レール両側に最低2ヶ所以上で固定することを推奨します。
※取付けレールのデザイン及び形状は予告なく変更される場合があります。
※付属部材は本体蓋を開けた中にしまわれている場合があります。

③ 本体の固定



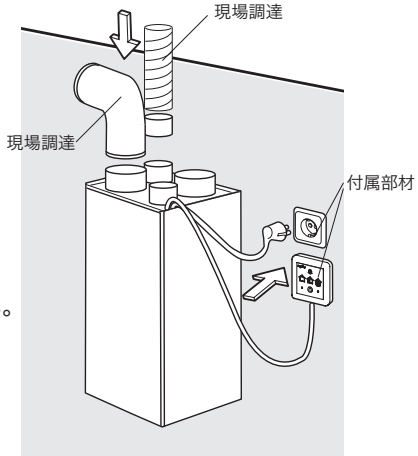
・固定した取付けレールに滑り込ませるように本体を上から差し込んで下さい。

④ 本体のビス止め



・本体外側の上部左右二箇所へ付属品の取付部材を差し込み、ビスで固定して下さい。

⑤ ダクト・電源ボックス・コントロールスイッチの取付け



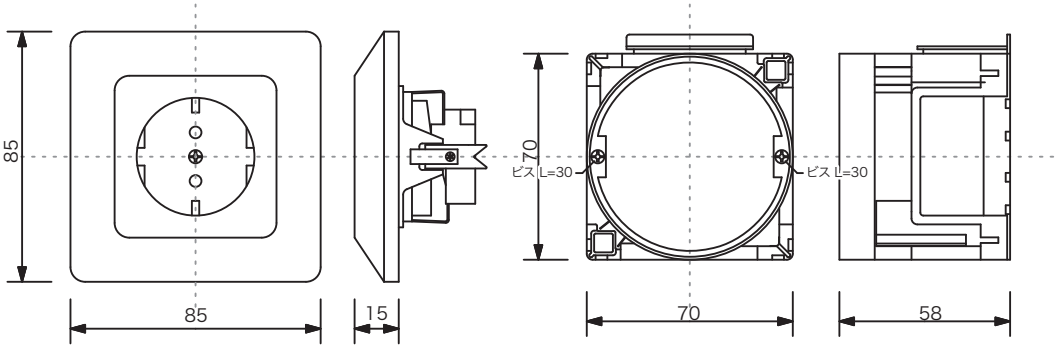
・ダクト施工を行って下さい。
・電源ボックス及びコントロールスイッチを取り付けて下さい。⇒P7、P8

施工　電源ボックス設置工事

RDKR-KS®
RDAS®

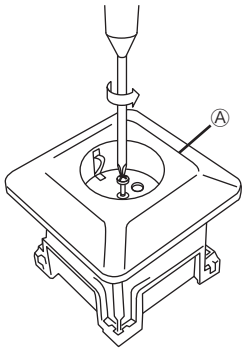
●電源ボックスの取付

■外形寸法図

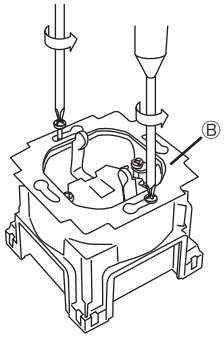


●電源ボックス施工要領

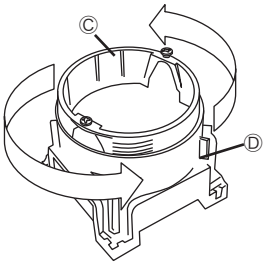
※①～④までの工程は部屋内側の壁を施工する前までに行って下さい。
※部品が破損する恐れがありますのでインパクトドライバー等は使用しないで下さい。



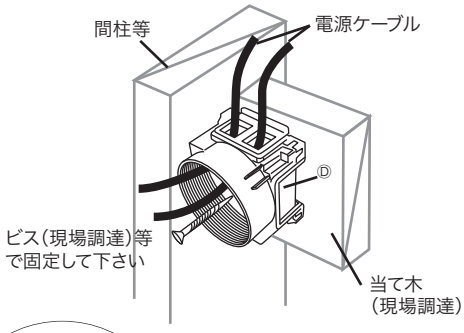
①
Ⓐを外すため、中央のビスをはずして下さい。

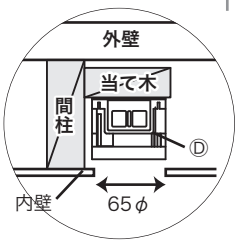


②
Ⓑを外すため、２本のビスをゆるめて下さい。



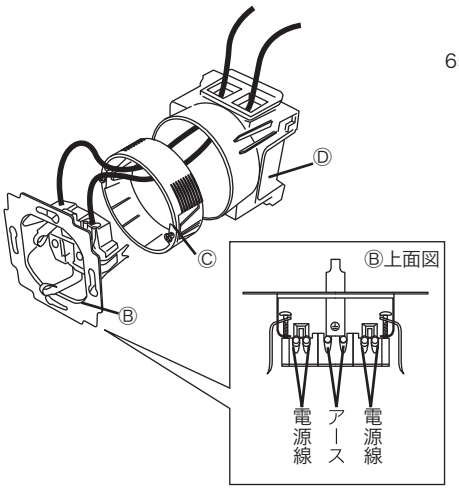
③
Ⓒを回して、Ⓓからはずして下さい。



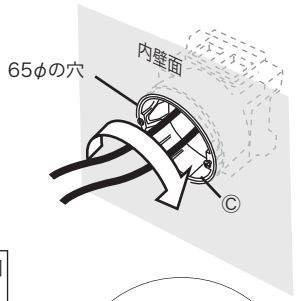


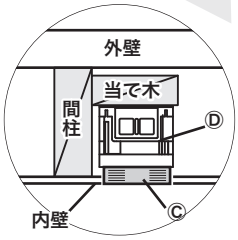
④
Ⓓを間柱、または当て木などに固定して上部の穴から電源ケーブルを通して下さい。

Ⓒ及び、Ⓓの部品は壁内の粉塵が結線穴に入るのを防ぐための重要な部材ですので、必ず取付けて下さい。

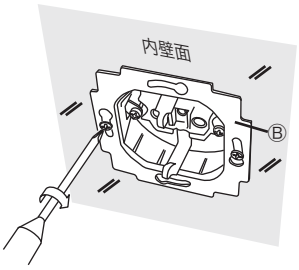


⑤
各パーツの順序を間違えないように配線して下さい。
Ⓑ上面の穴に上図の通り結線して下さい。

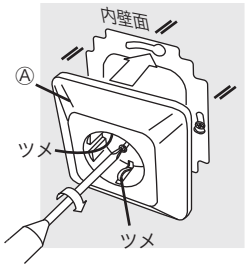




⑥
Ⓑへの電源ケーブルの結線は左図の通り行って下さい。



⑦
Ⓑのビスを締めてⒸと固定して下さい。ビスを締めるとⒸは回転しなくなります。
※締めすぎると部品が破損します。



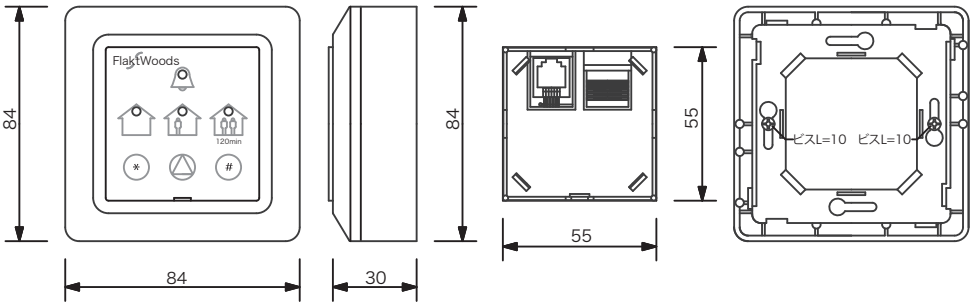
⑧
Ⓑのツメ（上下２本）をⒶの穴に合わせてⒶを押し込んで下さい。最後に中央のビスを締めて下さい。

施工　コントロールスイッチ設置工事

RDKR-KS®
RDAS®

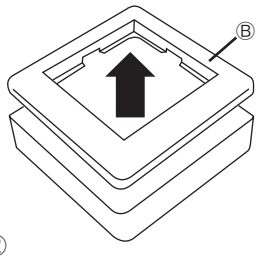
●コントロールスイッチの取付

■外形寸法図

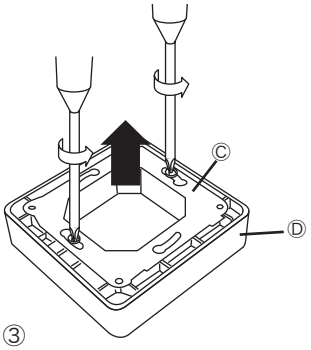


●コントロールスイッチ施工要領

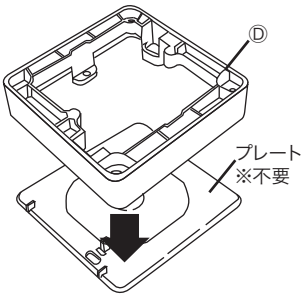
①
Ⓐの下部へコミにマイナスドライバーの先を差し込み、Ⓐをはずします。



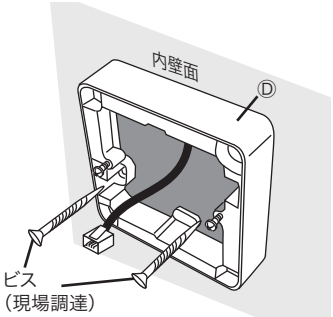
②
Ⓑをはずします。



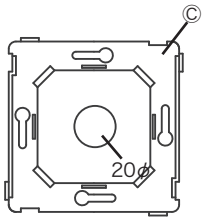
③
ⒹとⒸを接続している２本のビスをゆるめ、Ⓒをはずします。



④
Ⓓの裏側に付いているプレートをはずします。※プレートは使用しません。

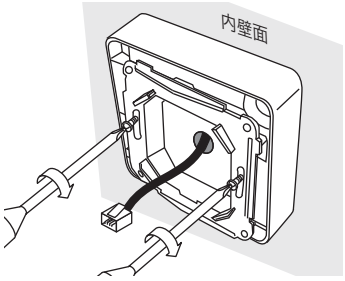


⑤
壁面にビス（現場調達）等を用いてⒹを固定します。制御ケーブルはあらかじめ通しておいて下さい。

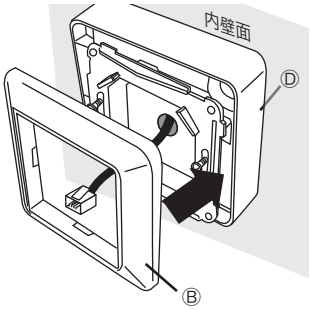


⑥
Ⓒの中心に、制御ケーブルを通す為の穴を開けて下さい。
（20φ程度）

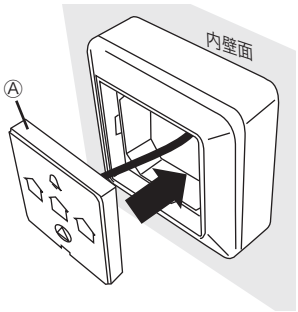
※工事中、制御ケーブルのコネクターに埃やボードカスが入らないように養生をお願いします。



⑦
２本のビスをしめて、Ⓒを固定して下さい。



⑧
ⒷをⒹに押し込んで取付けて下さい。

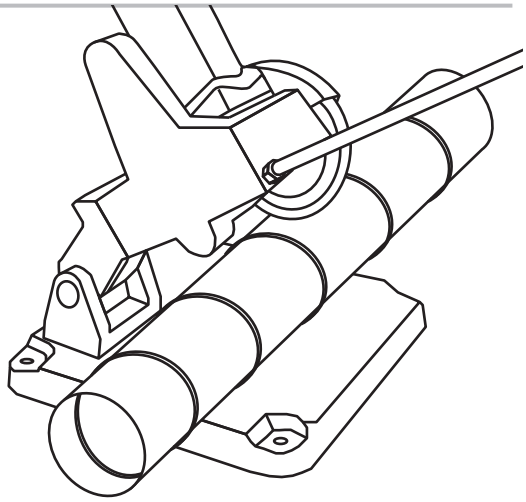


⑨
Ⓐ裏面にモジュラージャックを接続し、Ⓐをはめこんで下さい。

●ダクト工事

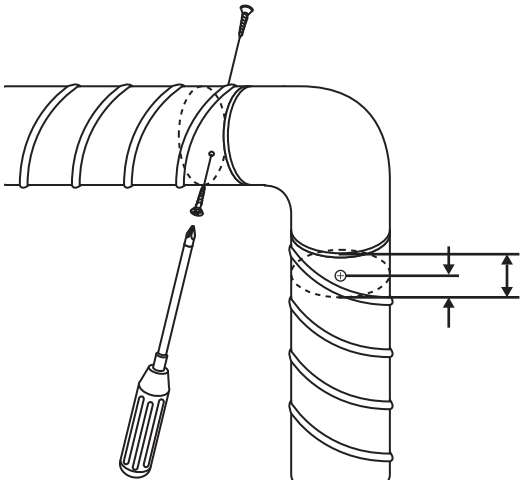
■ダクトの切断

ダクトをそれぞれの長さに切断します。
ダクトはスパイラルダクト又は VU 管等の硬質ダクトを使用して下さい。
切断には図のような電動グラインダ、もしくはハンドグラインダを、使用して切断して下さい。



■ビス止め

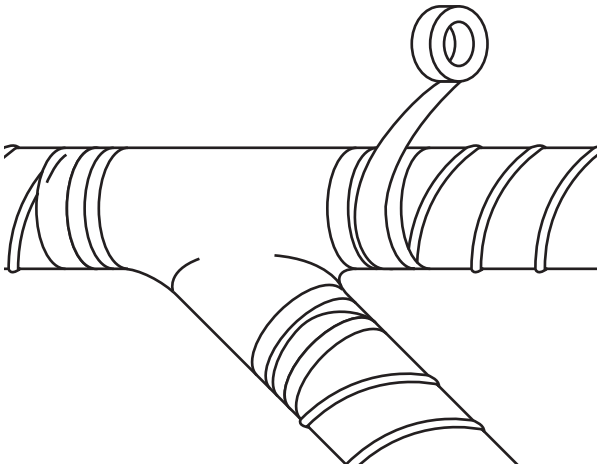
ダクトと異形管を図のようにつなぎ合わせ、ビス止めして下さい。
まず片方の、のみ込み中心位のところに穴を開け、ビスで止めます。
その場所の反対側にもビス止めをし、2 ヶ所ビス止めを行います。



■テーピング

ビス止めを施したダクトのつなぎ目に、アルミテープを図のように貼って下さい。

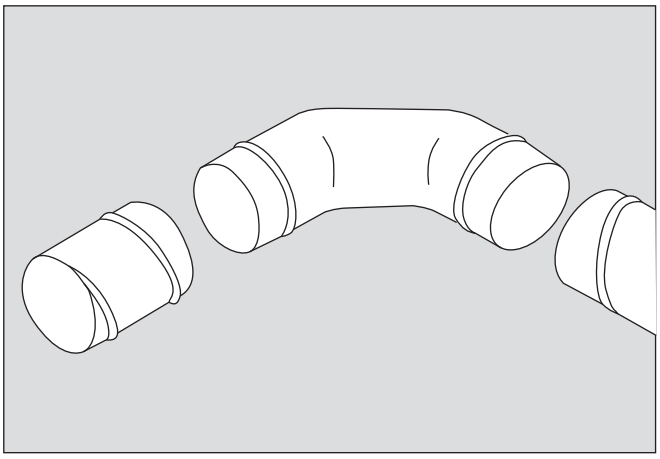
※ダクトの接続工事は、本システムに於いて気密性を保つためにも、重要な工事となりますので、ビス止め・テーピング等慎重に行うよう注意して下さい。



●ダクト工事(つづき)

■ダクトの接続

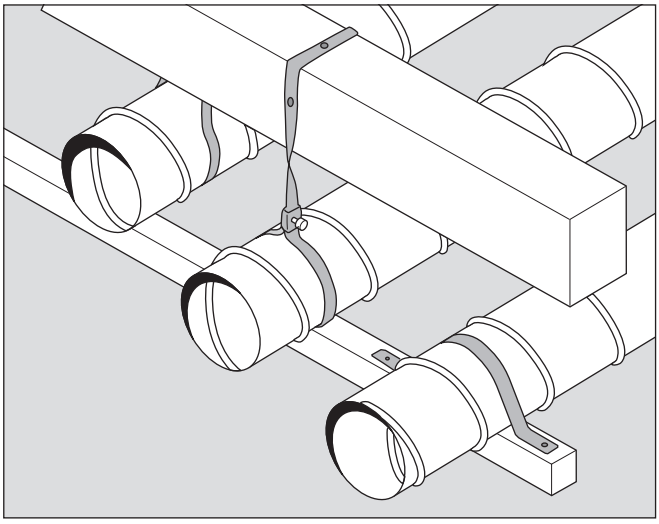
ダクトと異形管の接続には右図のような種類があります。できるだけ圧損を小さくするために 45°Y 管を使用して下さい。



※他にもレジューサー・ソケットといった、異形管との接続があります。

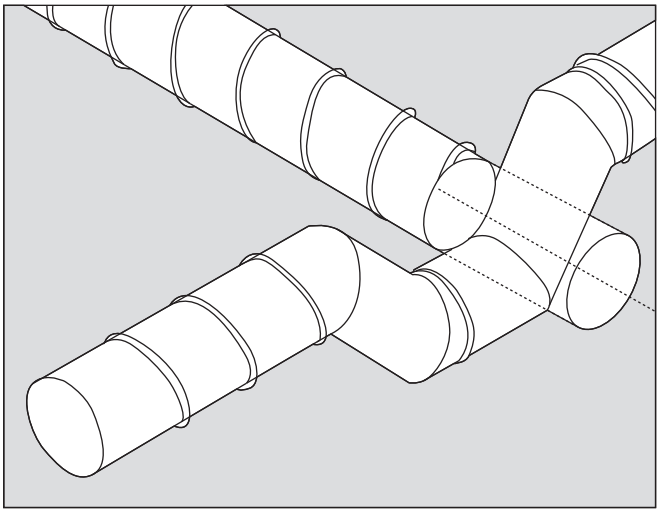
■ダクトの固定

ダクトの固定には図のように、躯体や下地にバンドで固定するタイプや、吊りバンドを使い固定するタイプがあります。状況に応じて使い分けるようにして下さい。



■ダクトの交差

ダクトが配管上交差する場合は、ダクトどうしでぶつからないよう図のように S 管を 2 個用いて交差させて下さい。



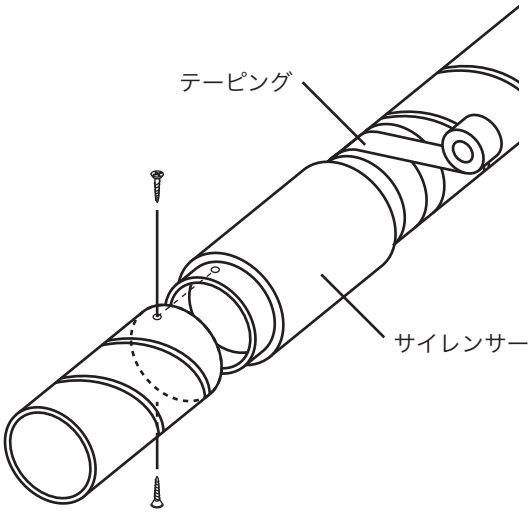
施工　サイレンサー・ダクト断熱工事

RDKR-KS®
RDAS®

●サイレンサーの取り付け

・設計図指定位置を確認して接続工事を行って下さい。工事はダクト工事と同様に、ビス止め（2ヶ所）・テーピングを施して下さい。

※指示位置付近に障害物がある場合は、熱交換器本体にできるだけ近い場所で、想定される給気ダクト配管が枝分かれする前の位置に決定して下さい。

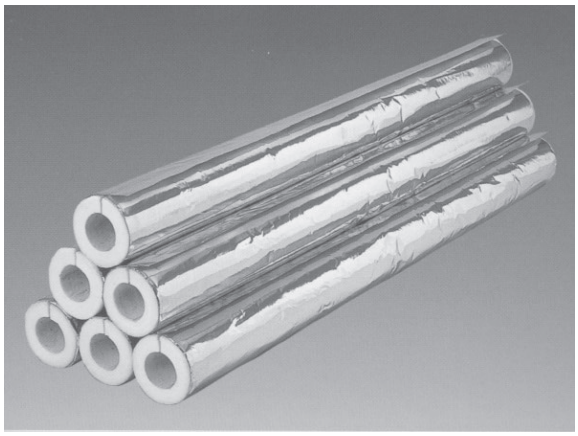


●ダクト断熱工事

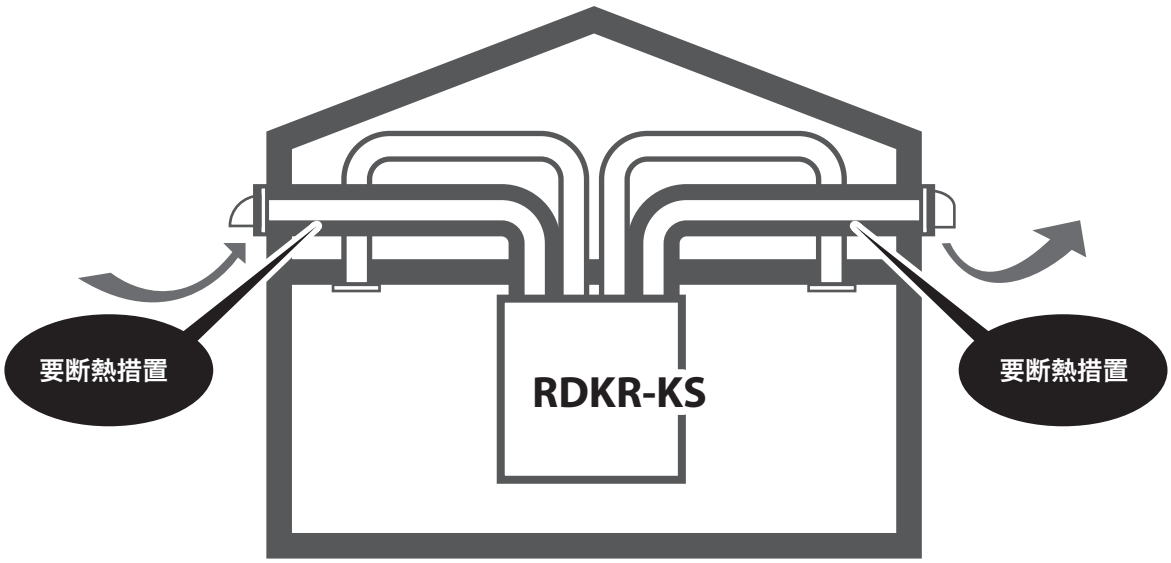
・断熱されていない場所に、ダクト工事を行う場合は、断熱工事が必ず伴います。断熱工事の必要な場所は、設計積算書でよく確認をして、施工して下さい。

・右図のように加工された断熱筒等を使い（GW24kg/㎥）断熱するダクトの長さにカットし、アルミテープで止めて下さい。

・本体からの外部給排気管は、必ず断熱処理をして下さい。



例：パラカパーALK（アルミクラフト貼り）



施工　レジスタ用ソケット設置工事

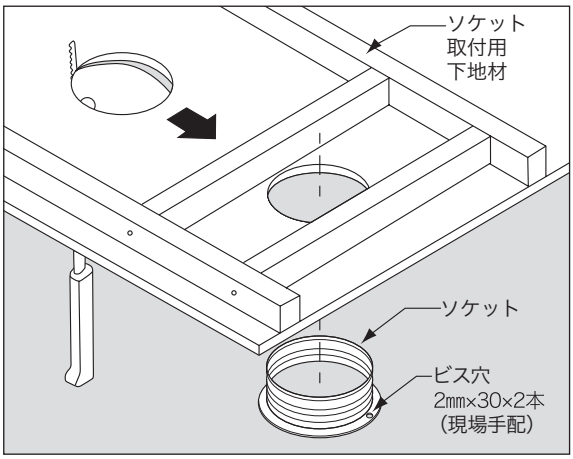
●給排気レジスタ用ソケット工事

・レジスタの取付位置に、100mm の穴（レジスタは全て 100φです。）を開け、レジスタソケットを差し込みビスで固定します。

・配管との位置関係を確認の上、精度良く穴開けして下さい。位置ズレは、本システムにおいて重要な気密性を損なう、一つの原因となります。

※レジスタ取付用ソケットは取付後、スプリングの効いたレジスタを抜き差しますので、脱落しないようにしっかりと固定して下さい。

※天井ダクトが防湿シートを破る時は、パイプ用気密シートにダクトを通してから、ソケットを接続 して下さい。この場合、パイプ用気密シートを防湿シートに充分テーピングして、気密性を保持して下さい。

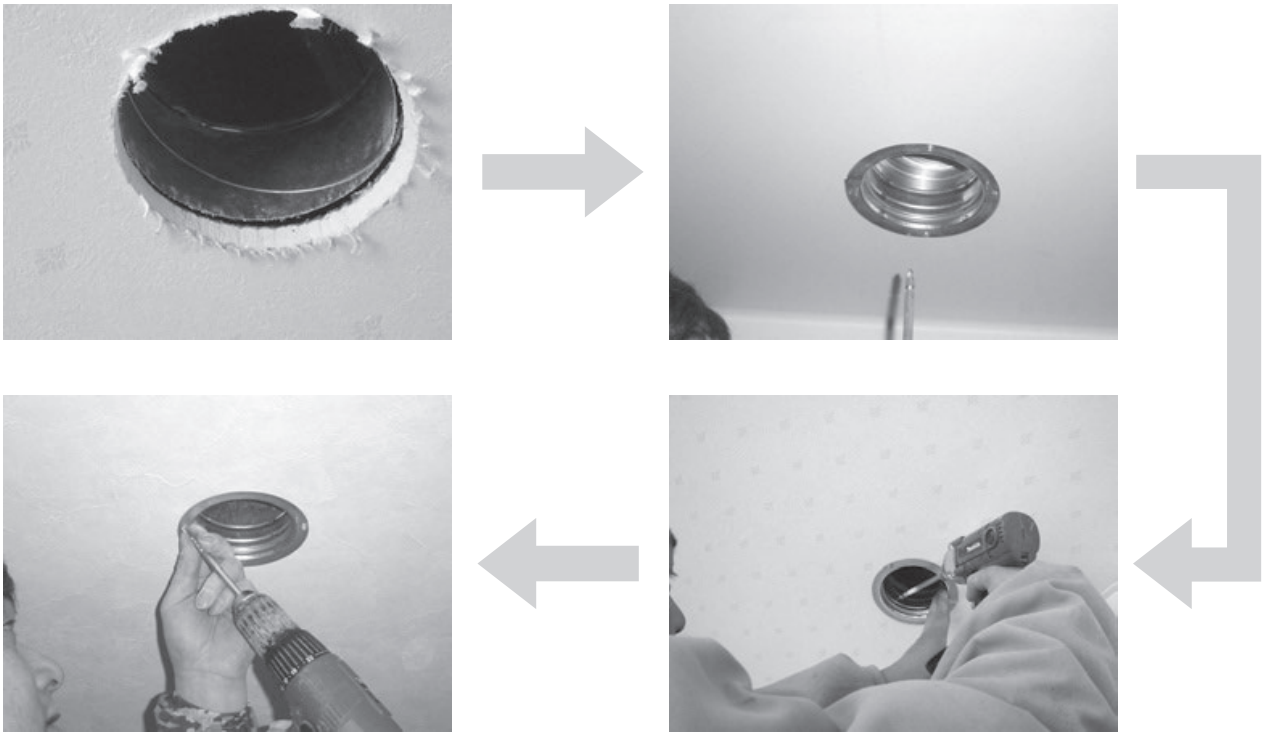


・取付面がベニヤ板の場合は不要ですが、プラスターボードの場合は、下地補強が必要です。

・下地材が用意されていなかった場合、写真の様にダクトとソケットをビス止めする方法もあります。

※レジスタソケットとダクトの接続は、全工事の中でも一番気密の保ちにくい場所ですので、ビス止め・テーピングを慎重に施すのみならず、必要に応じてコーキング等の対策も行って下さい。

・レジスタを取付ける時、ビスの頭の部分とレジスタがぶつかり合い、隙間が生じて気密性を損なわない為にも、ビス止めの際は必ず皿もみをして下さい。



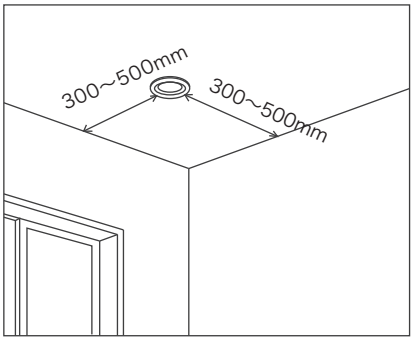
●給排気レジスタの取り付け

給気レジスタ（天井用）
CTVB-10

排気レジスタ（天井用）
KGEB-10

■レジスタの取付位置

基本的には設計図指定位置ですが、壁際・角寄りの場合、壁面から 300 ～ 500mm 位の距離を取って下さい。
※給気の場合、距離をとらないと壁クロスが汚れてしまう場合があります。

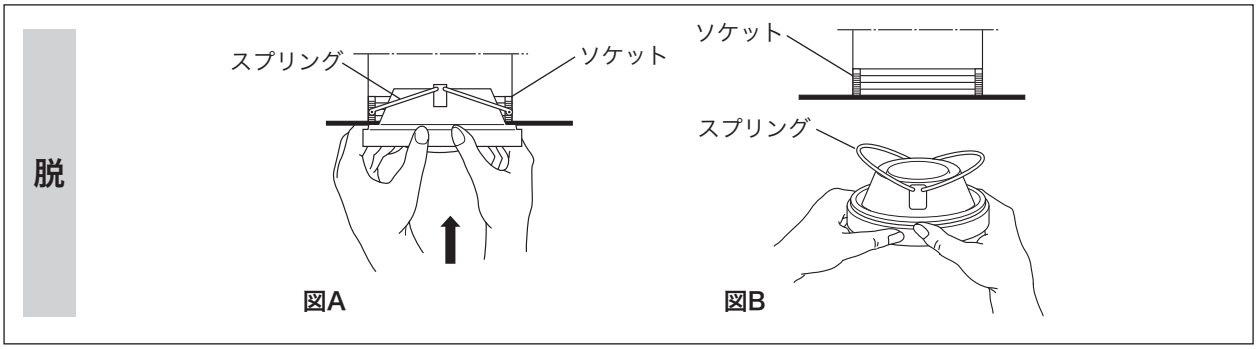


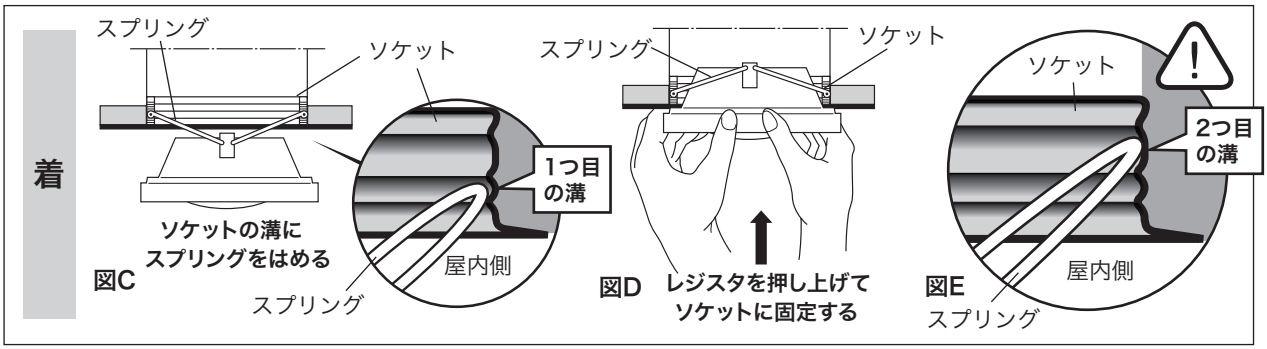
■レジスタの脱着方法

可動部分は、真ん中の円錐円盤状のものです。従って、この可動部分を触らないように、両側から両手でよく押さえ（図A）引き抜きます（図B）。
取付の際は、図のようにソケット側の溝（屋内側から1つ目）に両方のスプリングを引っ掛けて（図C）、ぴったりとはまり込むまで押し込みます（図D）。

⚠ **片側のスプリングが屋内側から2つ目の溝（図E）に間違ってはめ込んだ場合、落下により破損やケガの原因となります。**

※図は排気レジスタの脱着方法ですが、給気レジスタの脱着方法も全く同じ方法です。





メモ　■給排気レジスタは、建築業者によってはデザインの異なる商品を採用する可能性があります。お確かめ下さい。

施工　外部給排気フード設置工事

RDKR-KS®
RDAS®

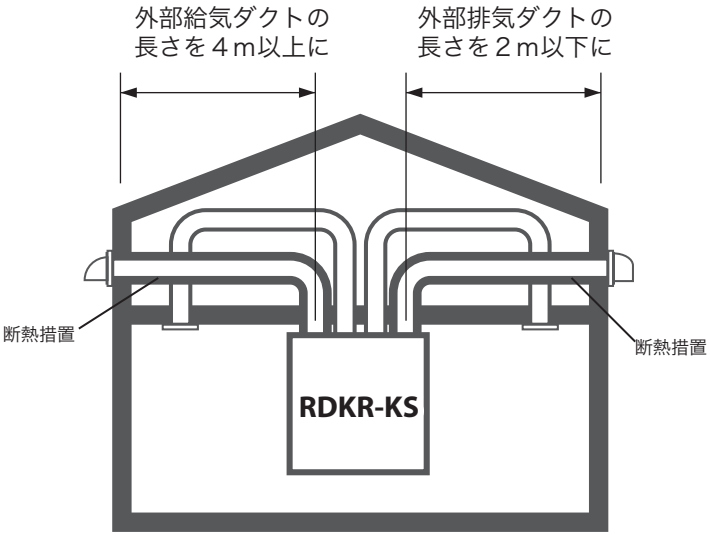
●給排気フードの取り付け

外部給気フード

BSDA-B-150UV
150φ（RDAS用）

外部排気フード

KB-150MVL2
150φ（RDAS用）

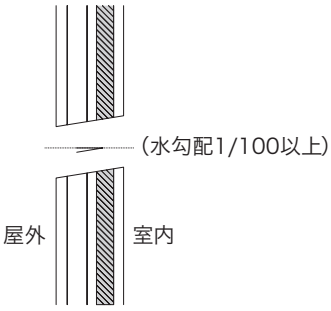


■フードの取り付け位置

・外部給気穴：155mm（RDKR-KSの場合）
　　155mm（RDASの場合）
・外部排気穴：155mm（RDKR-KSの場合）
　　155mm（RDASの場合）
※図はRDKR-KS

※外部 給・排気フードの位置は給気・排気が混ざらないよう6m以上の距離を取ることが望ましいとされています。

①取り付ける場所の壁に穴を開けて下さい。



禁止

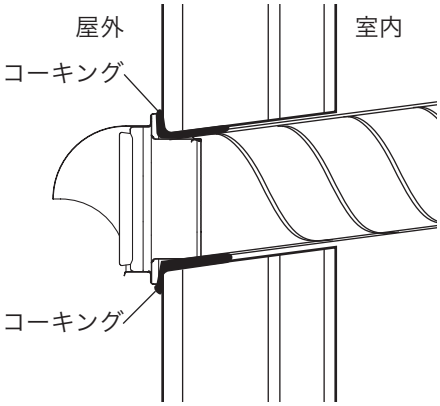
天井には取り付けない。
落下により、けがをする恐れがあります。

軒天部分に外部排気フードを取付しないでください。

・屋外下向きに水勾配を1/100以上設けて下さい。
（パイプを施工した状態で確保して下さい）

②壁の仕上がり総厚をよく確認し、ダクトの長さに注意して切断して下さい。テープや接着剤などでダクトがずれないように固定し、躯体に取り付けて下さい。
いずれも、ビス止め・テーピング・コーキング等で気密対策を必ずとって下さい。

③外部フードの周囲をコーキング処理して下さい。



メモ

■外部給排気フードは、建築業者によってはデザインや穴系の異なる商品を採用する可能性があります。お確かめ下さい。
■メッシュ（網）仕様は目詰まりによる換気欠損を招くため、絶対に使用しないでください。

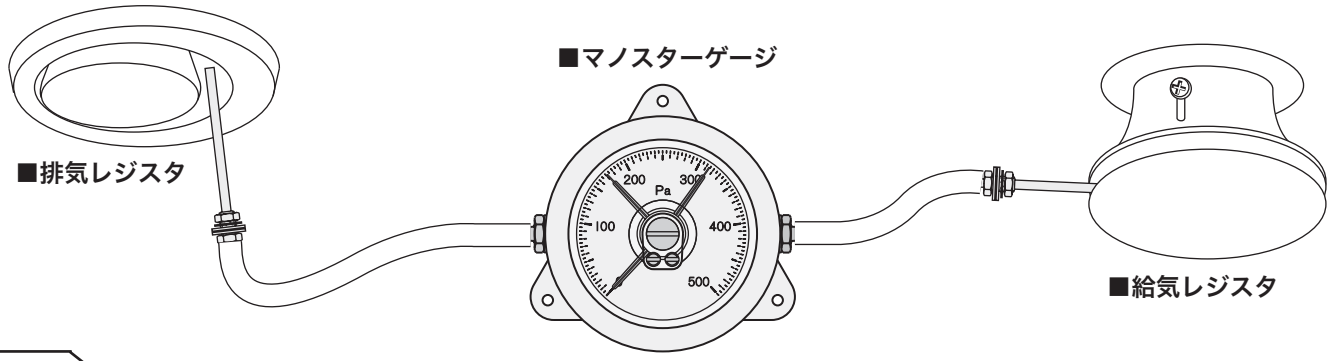
●寒冷地では、外部給気ダクトの長さを 4m 以上設けて下さい。
（結氷の原因）

●給・排気フードの位置は給気・排気が混ざらないようダクト貫通穴径の５倍以上離して下さい。
（625 ㎜以上の距離をとることが望ましいとされています）

測定

●風量の測定

1. 住宅用に設置されている全ての排気レジスタおよび、給気レジスタを指定の開度に設定します。
2. マノスターゲージを使い図のように先端を排気レジスタもしくは、給気レジスタに指し込み、差圧を計測します。
   マノスターゲージは水平もしくは垂直に保って計測して下さい。



メモ　差圧計測はレジスター箇所ずつに対して行ってください。

3. マノスターゲージに示された差圧(pa)と排気レジスタの開度の2つの値から表Aを使って排気量を読み取ります。

例）
開度「-9」差圧「50pa』の場合

表から約5.3ℓ/秒
→《㎥/時》に換算するために3.6倍にします。

5.3（ℓ/秒）×3.6 =19.08（㎥/時）

1時間あたり約19㎥の換気量となります。

3. マノスターゲージに示された差圧(pa)と給気レジスタの開度の2つの値から表Bを使って排気量を読み取ります。

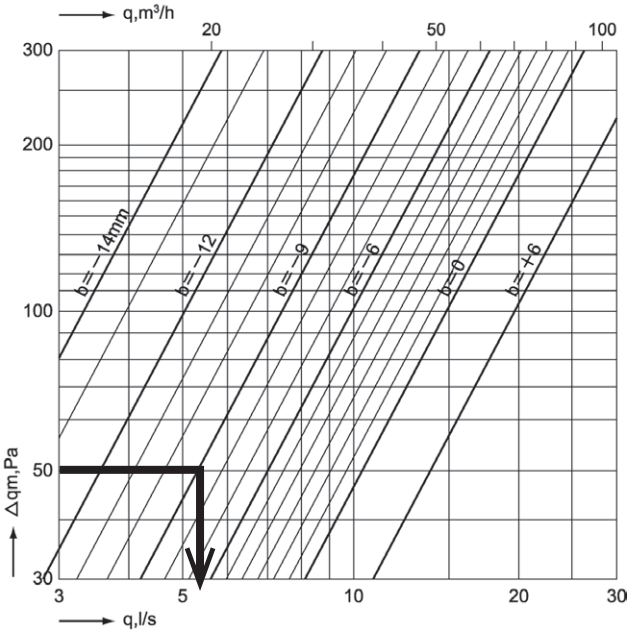
例）
開度「5」差圧「25pa』の場合

表から約7ℓ/秒
→《㎥/時》に換算するために3.6倍にします。

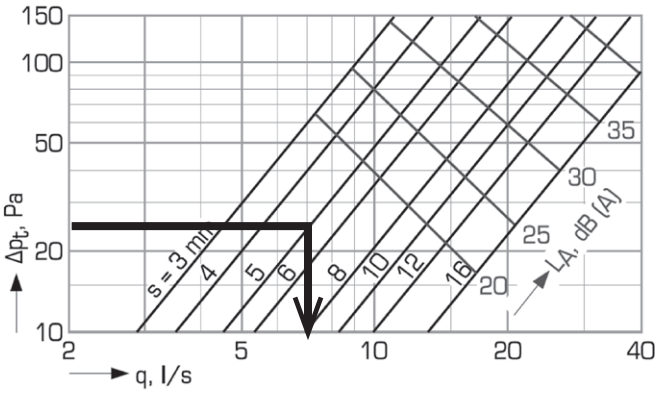
7（ℓ/秒）×3.6 =25.2（㎥/時）

1時間あたり約25㎥の給気量となります。

■表 A（排気レジスタ）



■表 B（給気レジスタ）



4. 全ての排気レジスタおよび、給気レジスタを計測、算出をして設計量と比較して下さい。
   設計値とずれている場合は、排気レジスタおよび、給気レジスタの開度を調整して下さい。

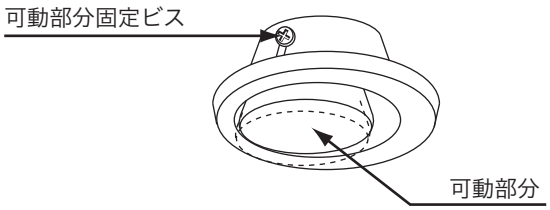
調整

RDKR-KS®
RDAS®

●レジスタ開度の調整

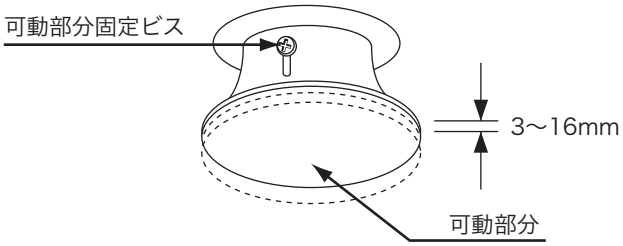
1.「給排気レジスタの取り付け」(P13)を参照し、レジスタをソケットから取り外します。
2. 可動部分固定ビスをプラスドライバーで緩め、スライドさせて指定開度数値に合わせた後、ビスを締め固定します。
※この時、レジスタコーンの位置がずれたり、斜めになったりしないよう注意深く固定して下さい。

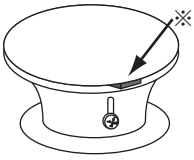
■排気レジスタ［KGEB-10］の調整方法



※設計計算書にある排気レジスタの開度数値は、レジスタ表面から円錐円盤状のレジスタコーンの面までの距離を表したものです。

■給気レジスタ［CTVB-10］の調整方法





※可動部分に貼付けてあるスポンジは輸送時破損防止のためです。正確な換気流量の妨げになるため、必ず測定前に取り外して下さい。

※設計計算書にある給気レジスタの開度数値は、レジスタ表面から円錐円盤状のレジスタコーンの隙間幅までの距離を表したものです。

テスト運転

RDKR-KS®
RDAS®

■テスト運転時に、以下の点を確認して下さい。

1. 電源は単相交流 200V に結線されているか。
2. 本体とコントロールスイッチのコネクタは、しっかり接続されているか。
3. 本体内のファンケースは、所定の位置にしっかり取付いているか。
4. 取り付け固定部品や取扱説明書は本体内から取り外しているか。

■テスト運転

・コントロールスイッチの▲を押すたびに、LED(緑)ランプと、ファンのスピードが弱、中、強と変わっている事を確認して下さい。
・更に、モーター回転方向の確認と、内部給排気レジスタからの吹出しと、吸込みの確認をして下さい。
・給気温度とコントロールスイッチ中モードの風量を初期設定値から変更する場合は、各種取扱説明書を参照して行って下さい。

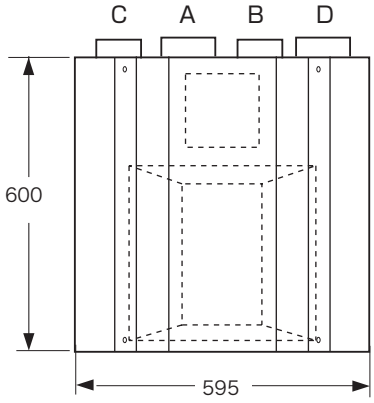
■故障と思う前に

テスト運転を行い、モーターが回転していない場合、下記の事をチェックして下さい。

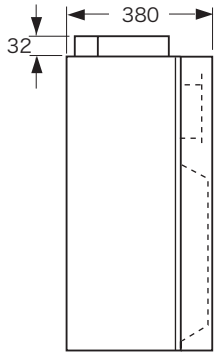
1. ブレーカーの[ON]を確認。
2. 電源を確実に止めて、コンセント部の配線をチェック。
3. 本体内の各コネクタ接続部をチェック。

寸法・主要諸元　RDKR-KS®

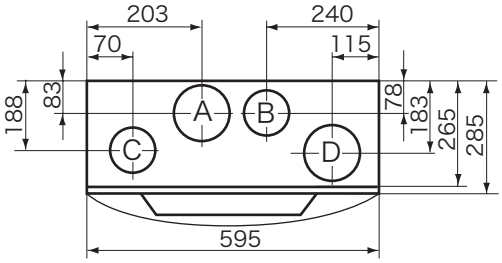
●外形寸法図（単位：mm）



【正面図】



【側面図】



【上面図】

A：各室への給気【SA】（給気レジスタへ）・・・・本体接続口125φ
B：各室からの排気【RA】（排気レジスタへ）・・・本体接続口100φ
C：外部からの給気【OA】（外部給気フードへ）・・本体接続口100φ
D：外部への排気【EA】（外部排気フードへ）・・・本体接続口125φ

換気ｼｽﾃﾑ各種動画URLご案内

G-Air_給気レジスタ_TP-100
https://vimeo.com/553245705

排気レジスタの排気量測定_簡易測定方法
https://vimeo.com/553248899

排気レジスタ_FPH-100
https://vimeo.com/553245433

排気レジスタの排気量測定_フード型測定器の場合
https://vimeo.com/553249098

排気レジスタ_KGEB
https://vimeo.com/553244769

排気レジスタの排気量測定 _
差圧計マノスターゲージの場合
https://vimeo.com/553245064

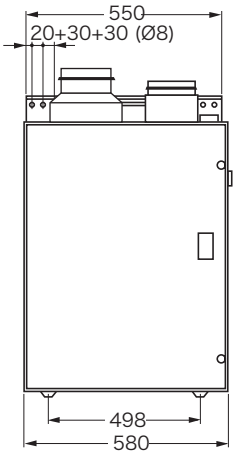
給気レジスタ_CTVB
https://vimeo.com/553248496

RDKR-KS _フィルター交換方法
https://vimeo.com/553245202

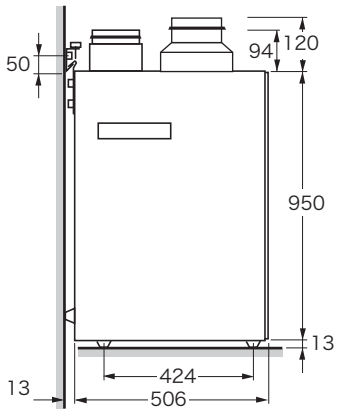
寸法・主要諸元

RDAS®

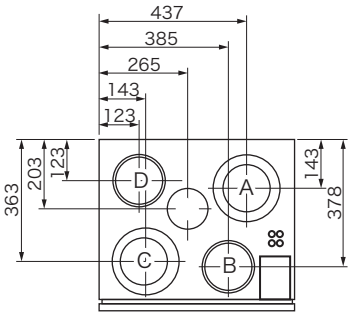
●外形寸法図（単位：mm）



【正面図】



【側面図】



【上面図】

A：各室への給気【SA】（給気レジスタへ）・・・・本体接続口150φ
B：各室からの排気【RA】（排気レジスタへ）・・・本体接続口150φ
C：外部からの給気【OA】（外部給気フードへ）・・本体接続口150φ
D：外部への排気【EA】（外部排気フードへ）・・・本体接続口150φ

RDKR-KS _モーター交換方法
https://vimeo.com/553246483

RDAS_フィルター交換方法
https://vimeo.com/553246840

RDKR-KS _熱交換素子_取り外し_取り付け
https://vimeo.com/553249916

RDAS_モーター交換方法
https://vimeo.com/553247565

RDKR-KS_熱交換素子_回転軸のグリスアップ
https://vimeo.com/553250357

RDKR-KS_RDAS_1種換気 ファン能力の変更方法
https://vimeo.com/553243982

RDKR-KS_熱交換素子の清掃方法
https://vimeo.com/553249243

※様々なシチュエーション向けの動画になるため、番号によっては生涯、不要な項目もございます。
物件によっては関係ない動画もございます。あらかじめご了承ください。

●納品時のご注意とお願い

納入時前後、以下の点にご注意及びご協力をお願い致します。

※納入条件は原則、現地車上渡しとなっており、また路線便による配送（時間指定不可）となるため、運転手は荷下ろしのお手伝いしか出来ません。現場内指定場所（間配り）や上階への搬入はお受けしておりません。配送の時間指定（チャーター便）や作業補助人員、 ユニック車の手配は別途有償となりますので、最低でも**納品 1 週間前**にご相談下さい。

※受領時、お手数ですが運転手立会いのもと、**商品の検品**を速やかに行い、欠品、異常、破損等がないかどうかご確認下さい。特に商品や商品梱包に異常や破損が見られる場合にはその旨、運転手に伝え、**受け取らず**に持ち帰ってもらって下さい。

※後日、商品の異常や破損等を発見された場合は、納品日より **1 週間以内**に弊社まで御連絡下さい。その際、原因がメーカー、輸送時、現場のいずれに起因するかの判断基準となりますので、状況の詳細のご連絡と梱包材及び商品の厳密な保管をお願い致します。お手数ですが**証拠写真（デジカメ画像推奨。**携帯電話画像では証拠能力がありません）等を撮って頂くと対処が迅速になりますのでご協力お願いします。商品引き取り後の検品で明らかに現場で起きたと思われる異常や破損が発見された場合、対処が**有償**となりますのでご注意下さい。

※後日、商品の異常や破損等を発見された場合でも、納品日より 1 週間以上経過した場合や、施工後明らかに現場で起きた異常や破損等のクレームは受けかねる、または**対処が有償**となる場合がありますのでご注意下さい。

※現場にて不要となった梱包材等は、原則全て**現場での処分**をお願い致します。弊社にて引取、処分する場合、別途有償となりますのでご了承下さい。

経年劣化に係わる注意喚起のための下記の内容の表示を本体にしています。点検口を開いて確認をして下さい。

【製造年】本体に西暦4ケタで表示してあります。
【設計上の標準使用期間】6年

設計上の標準使用期間を超えて使用されますと、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

長期使用製品安全表示に基づく本体表示

※経年劣化により危害の発生が高まる恐れがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた下の内容を本体に表示しています。

PSE

なお、表示内容が確認できず、わかりにくい場合は、この工事説明書に記載の「お客様ご相談窓口」へご相談下さい。

日本総代理店　販売・保証・お客様ご相談窓口

GADELIUS

Established in Japan,1907

ガデリウス株式会社
LEH建築材料部

www.livingscandinavia.com

〒107-0052 東京都港区赤坂7-1-1 青山安田ビル4F
TEL.03-5414-8762　FAX.03-5414-8755

〒065-0024 札幌市東区北24条15-4-20 日弘ビル3F
TEL.011-743-7710　FAX.011-743-7721

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町1-9-1
仙台トラストタワー10階 CROSSCOOP内
TEL.022-209-5440　FAX.022-774-1636

〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4丁目4番17号
ニッセイ三宮ビル15F
TEL.078-331-6574　FAX.078-331-6582

2604K